

割当方式検討タスクフォース（第5回）

議事要旨

1. 日時

令和5年5月24日（水）15：00～15：40

2. 開催方法

WEB会議

3. 出席者（敬称略）

構成員：

五十嵐歩美（東京大学大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻准教授）、石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会理事）、佐野隆司（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授）、高田潤一（東京工業大学環境・社会理工学院学院長／教授）、林秀弥（名古屋大学大学院法学研究科教授）、安田洋祐（大阪大学大学院経済学研究科教授）、柳川範之（東京大学大学院経済学研究科教授）

総務省：

竹村総合通信基盤局長、豊嶋電波部長、近藤総合通信基盤局総務課長、荻原電波政策課長、中村移動通信課長、渡部携帯周波数割当改革推進室長、田畑電波政策課企画官、入江移動通信企画官

4. 配付資料

資料5-1 割当方式検討タスクフォース 取りまとめ（案）

5. 議事要旨

（1）開会

（2）議事

①事務局説明

資料5-1に基づいて事務局から説明を行った。

②意見交換

構成員からの意見は以下のとおり。

(高田主任代理)

これまでの議論や懸念があった点について、ほぼクリアになっており、この方向でWGに
上げることでよい。

(五十嵐構成員)

条件付オークションについて、ケース・バイ・ケースで行うことに非常に賛成である。

具体的な制度設計においては、例えば十分な周波数枠の確保を図る一方、できるだけ細分
化を避けたいといったトレードオフがあると想定されるが、それも個々の状況に応じて適
切に判断していけばよい。

(石田構成員)

非常に分かりやすい取りまとめとなっている。

参加資格としてMVNOへの提供が含まれることや、比較的小さな地域単位での割当て
も考えられることから、新規参入がしやすくなり、条件付オークションによってイノベーシ
ョンの促進が図られることを期待したい。

(佐野構成員)

競争阻害的な行動の抑止策に関して、一般的に複数財のオークションにおいては、暗黙の
談合や共謀の余地が大きいと考えられていることから、できるだけ談合のような行動が困
難になるようなオークションの設計が重要と考えられる。

例えば、入札額について、事業者が具体的な金額を書くのではなく、いくつか入札額の候
補を挙げて、いずれかをクリックする形の「クリックボックス入札」の採用や、競り上げに
ついて、競り上げの途中で開示する情報の内容によって、協調的な入札を難しくする方法が

ある。これらは非常に細かい制度設計であり、実際に条件付オークションを実施するに当たって詳細を詰めていくと思うが、今回の取りまとめにおいて、条件付オークションの細部の設計に当たって、談合等の競争阻害的な行動が取りづらくなるように考慮する必要がある旨追記されるとよい。

(渡部室長)

競争阻害的な行動の抑止策として記載するか、オークション方式のアクティビティールとして記載するか等について事務局で整理の上、適切な項目に加筆するよう検討したい。

(林構成員)

各構成員の意見がほぼ漏れなく盛り込まれており、内容に異存はない。その上で2点確認する。

1点目、オークションが法案となった場合には、現行の開設計画認定制度のいわば特別プログラムとして位置付けられるという理解でよいか。

2点目、廃案となった2012年のオークション法案では、適用周波数帯について、オークションによることが「電波の経済的な価値の十全な発揮に資すると認められるもの」とされていた。今回は、オークションの適用条件の判断基準として6GHzで区切ることとされており、これ自体に異論はないが、6GHzで区切ることが「電波の経済的な価値の十全な発揮に資すると認められる」ことについて、今後十分な理由付けを行っていく必要があるのではないかと。実質的な理由付けは取りまとめ案に記載されているが、法形式論的な詰めを今後お願いしたい。

(渡部室長)

今回の取りまとめを踏まえた制度整備に当たって整理すべき論点と考える。法制化等の今後の検討において、ご指摘を踏まえて対応していきたい。

(安田構成員)

法律、技術、経済、オークション設計といった多岐にわたる専門性の高い論点が出てきたが、非常にいい形でバランスよくまとまっている。

今後、実際のオークション設計に至るまでの道のりについて重要と考える点を述べると、

日本では周波数オークションを初めて実施することになるため、他国の経験に学ぶことが重要である。特に、隣国である韓国や、国土面積や1人当たりGDPに近い英国、様々なデザインを行っているオーストラリアは参考になるだろう。

また、国土の面では日本とかなり異なるが、初めての本格的な周波数オークションは1994年にアメリカで行われている。これに関して、後にノーベル経済学賞を受賞するポール・ミルグロムの理論的研究とともに、チャールズ・プラットが主導して多くの実験室実験が行われたことが知られている。

今後我が国においてオークションを導入する際にも、理論的な観点を十分に踏まえながら、ロールプレイによる実験を行い、どのように実施すればうまくいくのかについて事前に検証してから実行するのがよい。

(今回の議論の中で出た意見を踏まえた取りまとめ(案)の修正については、主任に一任された。)

(3) 閉会

以上